

大東市、電気「地産地消」

枝・廃材で発電↓役所・学校に

大東市は、今月から市役

所本庁舎や小中学校で使う電気を、間伐材などを燃料とする木質バイオマス発電の電力に切り替えた。二酸化炭素(CO₂)の排出が抑えられ、年間約1千万円の電気料金削減が見込める

という。

木質バイオマス発電は、間伐材などから作った木質チップを燃やして発電する。燃料は市内の小中学校で切った木の枝や、建設工事で出た廃材を活用。電気「地産地消」を目指す。

市によると、市内にある民間のバイオマス発電所でできた電力を使用。市役所本庁舎と市内20小中学校が対象で、2016年度の消費電力は約39.1万キロワット時だったという。

市ではバイオマス発電に切り替えることで経費を削減でき、CO₂の排出量を年間約350ト削減できると見込む。

市の担当者は「廃棄物を

有効活用することができ、環境にもプラスになるため一石二鳥。今後他の公共施設でも使用できるよう進めていきたい」としている。

(光豊祥吾)